

# 2024年度 児童アンケート結果

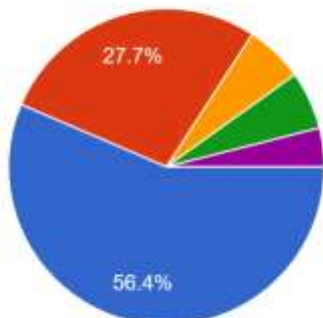
3年生

5年生

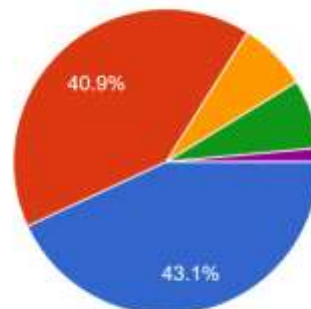
- A.よくあてはまる
- B.だいたいあてはまる
- C.わからない
- D.あまりあてはまらない
- E.あてはまらない

## 1. 学校へ行くことが楽しい

101件の回答

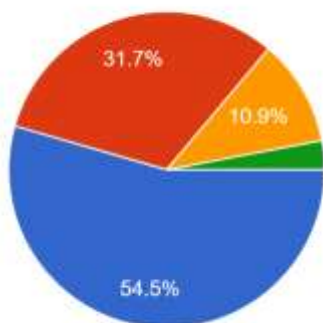


137件の回答

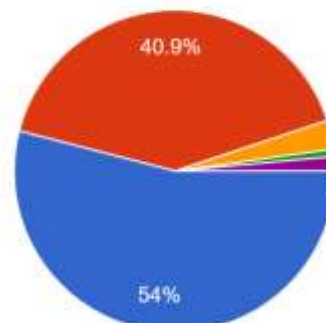


## 2. 授業でわかったことやできるようになったことがある

101件の回答

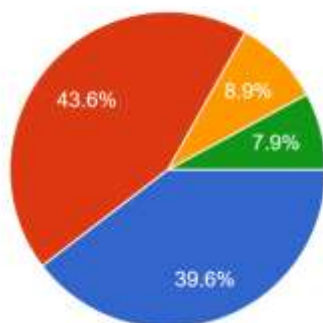


137件の回答

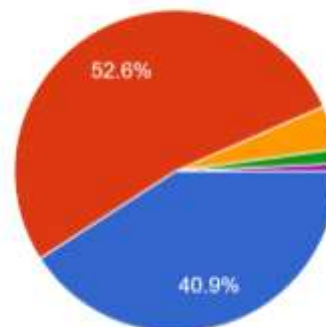


## 3. 毎日の学習は、だいたい理解できている

101件の回答

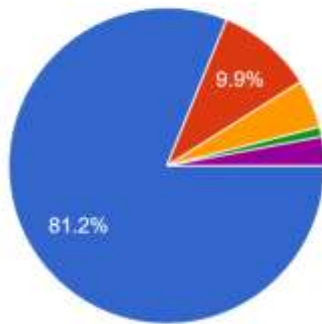


137件の回答



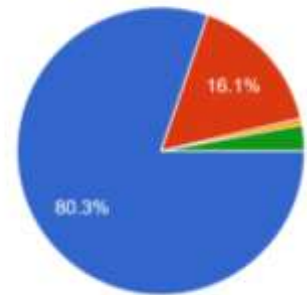
4. 学校の体験学習（市内めぐり、運動会など）は楽しい

101 件の回答



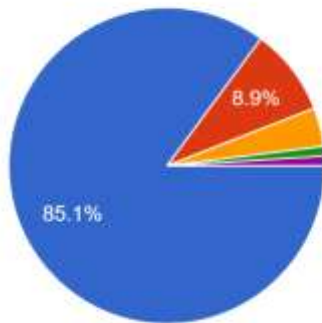
(八ヶ岳体験教室・運動会など)

137 件の回答

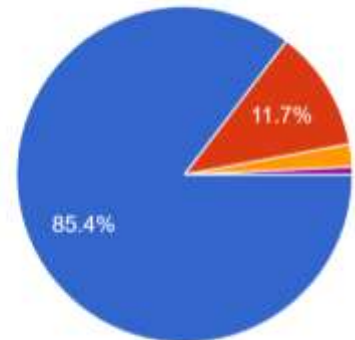


5. 学校で、遊んだり話したりする友だちがいる

101 件の回答

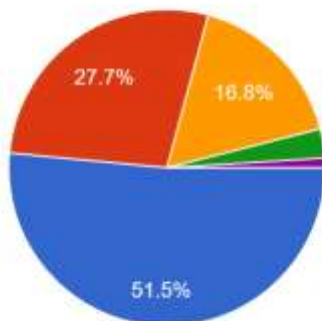


137 件の回答

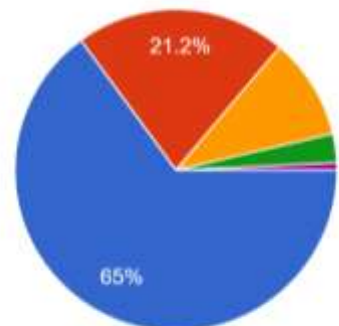


6. 困ったとき、先生は自分の話を聞いてくれる

101 件の回答



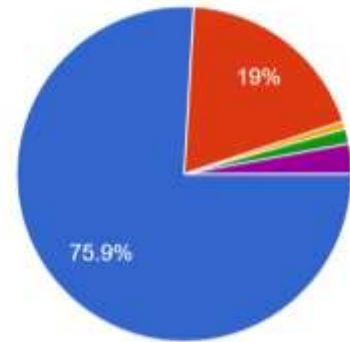
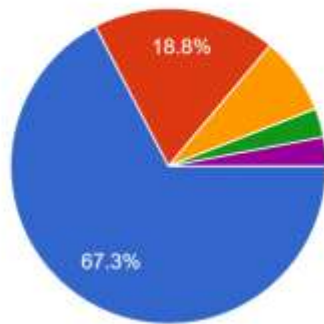
137 件の回答



7. 困ったとき、お家の人は自分の話や学校のことを聞いてくれる

101 件の回答

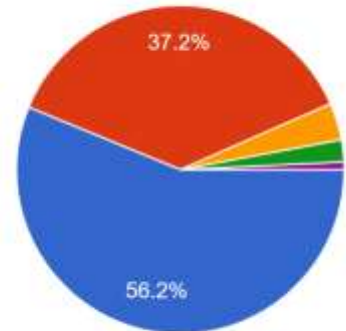
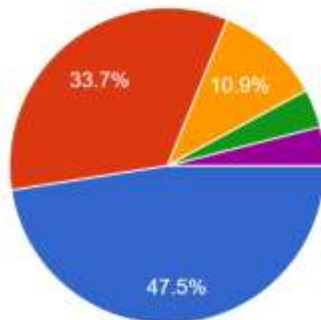
137 件の回答



8. おはようボランティアさんなど地域の人に、進んであいさつをしている

101 件の回答

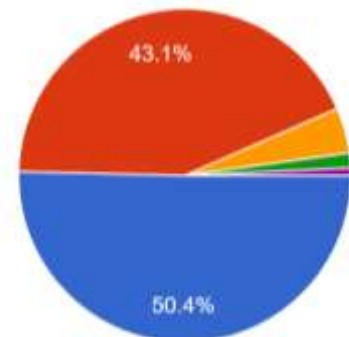
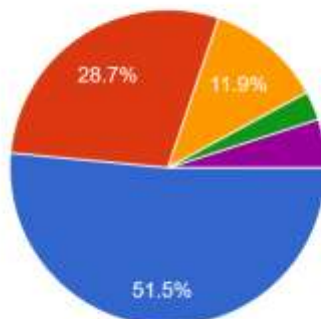
137 件の回答



9. 先生や友だちに、進んであいさつをしている

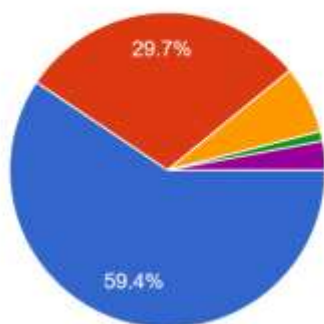
101 件の回答

37 件の回答

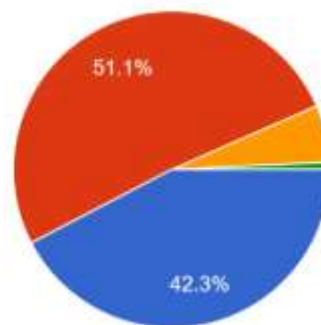


## 10. 授業時間と休み時間を切りかえて、すごすことができる

101件の回答

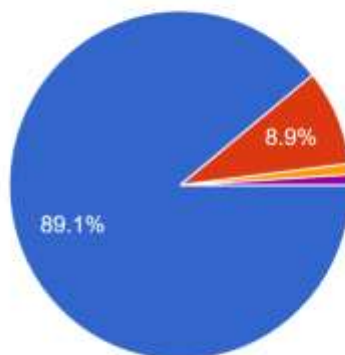


137件の回答

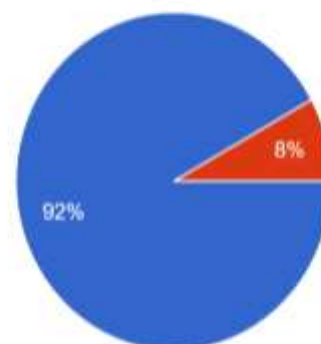


## 11. 自分は、「いじめ」はいけないと分かっている

101件の回答



137件の回答



### 2024年度 学校評価アンケート 児童用考察

「1. 学校に行くことが楽しい」では、3年、5年ともに85%近くの児童がA・B評価をしている。ただし、両学年共に16%の児童が、C・D・E評価をしているので、「学校へ行くことが楽しくない」と感じている児童に対して、学校へ行きたいと思えるような寄り添いやサポートを図っていく必要がある。

「2. 授業がわかる 3. 学習が理解できる」について、3年生では約85%、5年生では90%以上がA・B評価をしている。これらの結果から、両学年ともに概ね授業の内容を理解していることが分かる。しかし、全体の5%~10%ほどの児童はC・D・E評価をしているので、学習に対する困り感があるともいえる。日頃から、困っている児童にも十分注視し、一人ひとり丁寧に支援をしていく必要がある。

3年生では、「4. 学校の体験学習（市内めぐり、運動会など）は楽しい」では、91.1%もの児童が、AB評価をしている。5年生も、「4. 学校の体験学習（ハケ岳体験教室、運動会など）は楽しい」では、96.4%もの児童が、AB評価をしている

両学年共に、体験学習による幅広い学びを通して、学校生活を充足させていることが分かる。「体験を通じた学びの充実」が概ね達成できている。

「5. 学校で、遊んだり話したりする友だちがいる」

「6. 困ったとき、先生は自分の話を聞いてくれる」

「7. 困ったとき、お家の人は自分の話や学校のことを聞いてくれる」

両学年とも、およそ80%以上の児童が、A・B評価をしており、概ね安心して生活できる環境が整っていると考えられる。しかし、「6. 困ったとき、先生は自分の話を聞いてくれる」では、5と7の設問に比べ、

A・B評価の割合が少なくなっている。教職員としては、児童がいつでも相談できる環境づくりに努める必要がある。

8、9あいさつについては、3年が役80%、5年は役90%がA・B評価をしている。

両学年共に、80%以上の児童がAB評価をしており、概ね進んで挨拶を行うことが出来ていると自己評価していることがわかる。

10、授業時間と休み時間を切りかえについて、両学年ともに、およそ90%以上の児童がAB評価をしており、概ね学校生活の中でルールを守り、規則正しい生活を送れていることが分かる。

11、いじめに関して、両学年ともに、ほとんどの児童が「いじめはいけないこと」と理解している。しかし、日常の児童の様子から、これが実際に「いじめをしない」「いじめを許さない」行動に結びついていないことがある。引き続き、いじめの未然防止のための取組を継続し、いじめの芽を摘む日頃からの指導が重要と考える。